

7 . 水源地域動態

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

猿谷ダムにおける水源地域動態の評価は、大きく2つの観点から行った。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理開始以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理した。この結果に基づき、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等について評価した。

もう一つの観点として、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行った。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行った。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討した。

7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの観点により評価を行った。

作業のフローは、図 7.1.2-1 に示すとおりである。

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口・産業等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握した。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握した。

また、猿谷ダム周辺施設の利用状況・地域交流・各種イベント・水源地域ビジョンの活動実績等の内容・参加人数等を整理するとともに、これまでダムに訪れた人や地元住民から寄せられた意見・要望等から猿谷ダムに対する意識を把握した。これらのとりまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握した。

(3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」等も参考にしながら、地域におけるダムの位置づけについて考察を行った。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年を含むこれまでのダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価した。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理を行い、加えて、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」により新たに整備された施設等についても整理した。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行った。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めた。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理した。

また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行った。

(6) まとめ

以上のとりまとめ結果から、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理した。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめた。

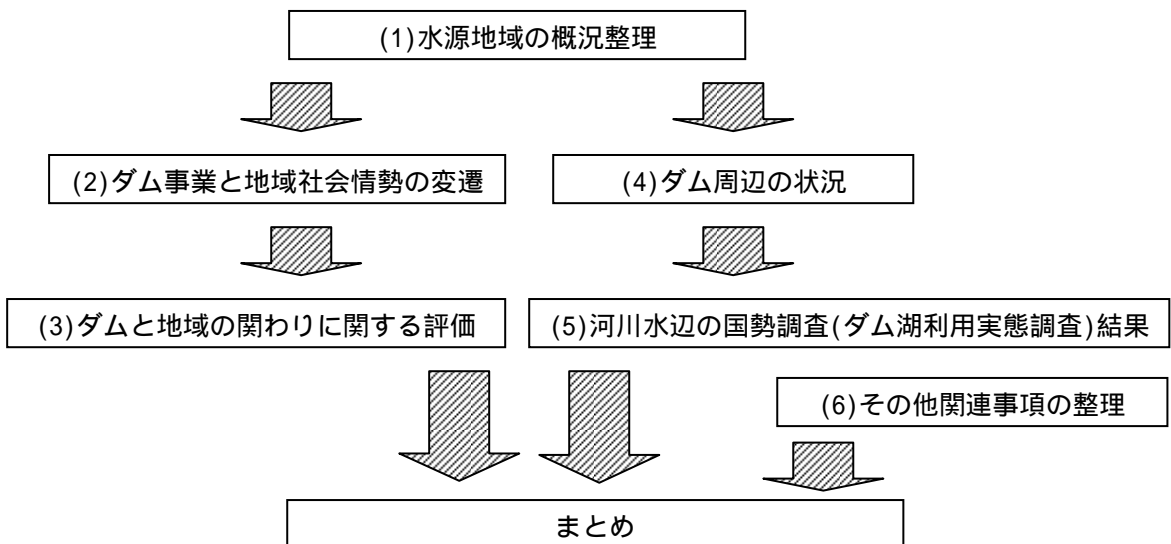


図 7.1.2-1 評価手順

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 水源地域の位置

猿谷ダム周辺の水源地域市町村の状況は、図 7.2.1-1 に示すとおりである。

猿谷ダムの水源地域市町村は、天川村、野迫川村、五條市大塔町（旧大塔村）と、猿谷ダムからの分水先である紀の川流域の五條市（西吉野町を含む（旧西吉野村））を含めて水源地域とする。なお、平成 17 年 9 月に旧大塔村、旧西吉野村、五條市が合併し、現五條市となっている。

猿谷ダムが位置する五條市は、紀伊半島のほぼ中央部、奈良県の南西部に位置し、四季折々に情感を漂わせる国立・国定公園などの豊かな自然とロマンにあふれる歴史が満ち溢れている。また、平成 16 年 7 月には、「紀伊山地の霊場と参詣道」（和歌山県・奈良県・三重県にまたがる 3 つの霊場（吉野・大峰、熊野三山、高野山）と参詣道（熊野参詣道、大峯奥駈道、高野山町石道））が世界遺産（文化遺産）に登録されており、参詣道の一つ「大峯奥駈道」が五條市、天川村を通っている。

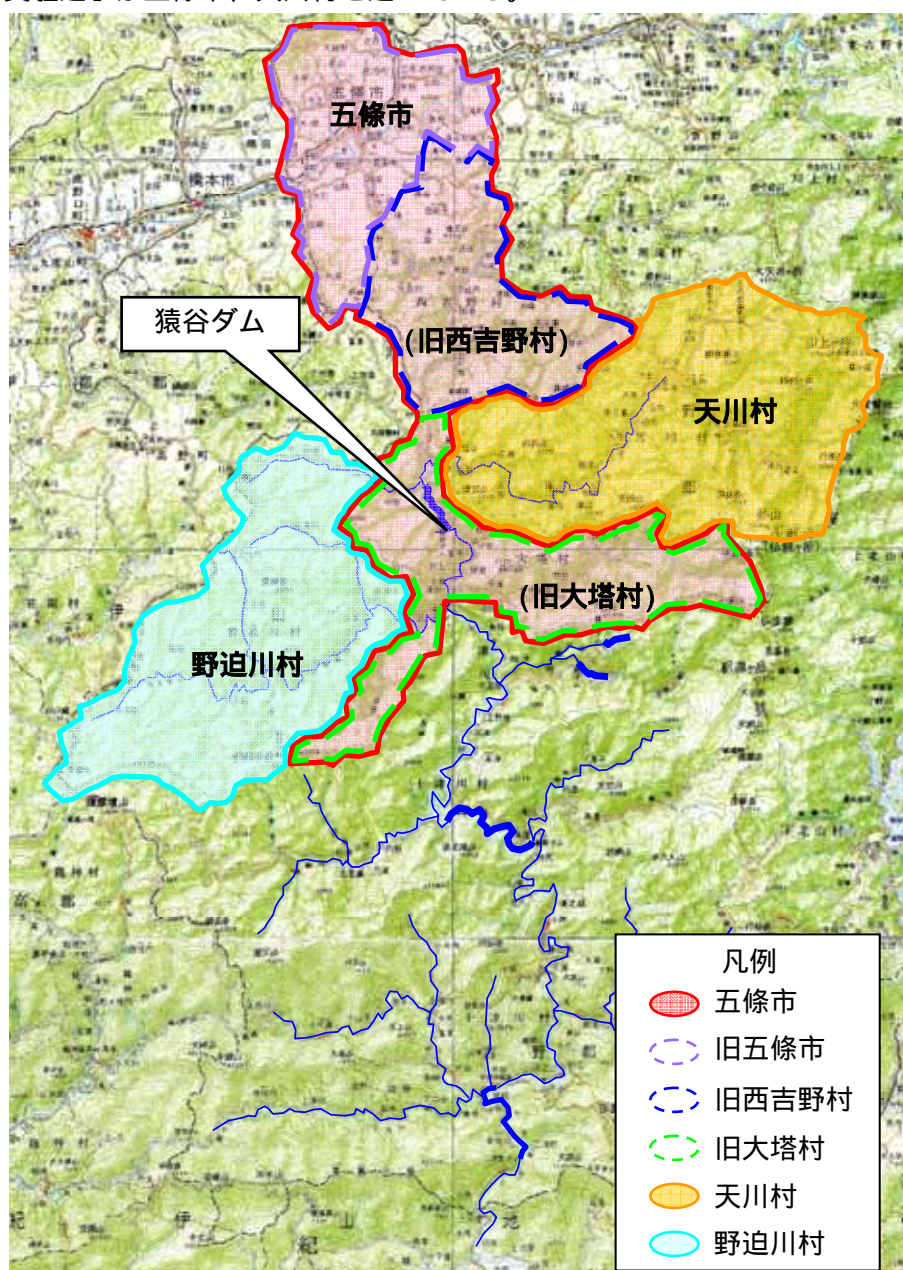


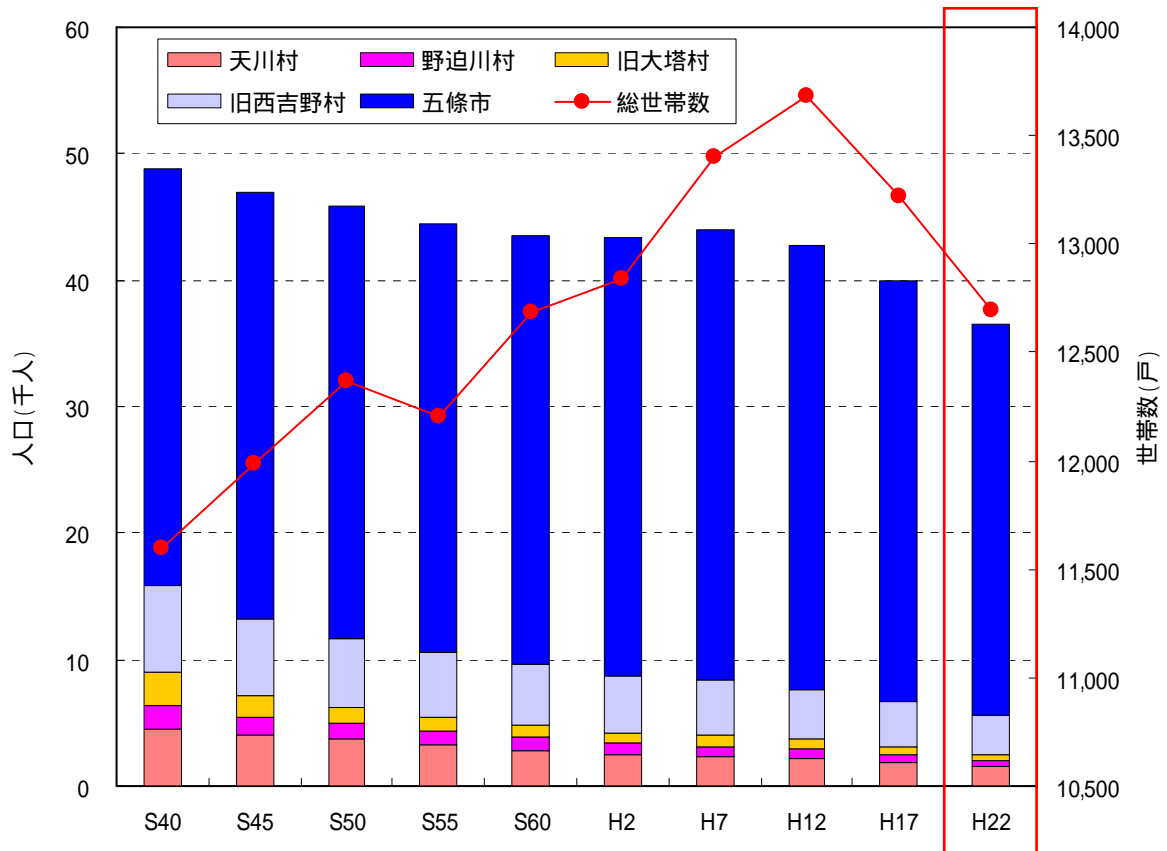
図 7.2.1-1 猿谷ダム周辺の水源地域市町村の状況

(2) 水源地域における人口・産業構造・事業所数

1) 総人口・総世帯数

猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体全体の人口・世帯数の推移を図 7.2.1-2 に示す。
猿谷ダム水源地域では、人口が減少し続けている。

世帯数については、平成 12 年までは増加していたが、平成 17 年以降、減少に転じている。



(国勢調査結果を基に作成)

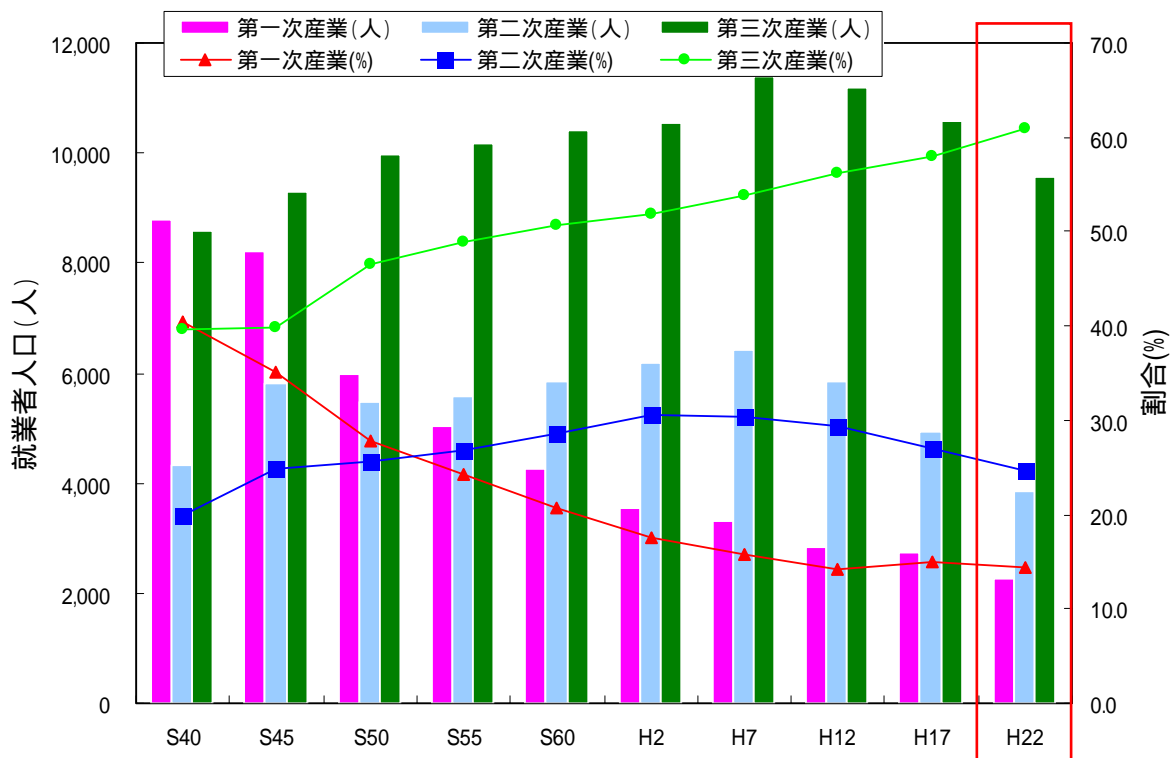
図 7.2.1-2 猿谷ダム水源地域全体の人口の推移

(出典：文献番号 7-2)

2) 産業別就業人口

猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業人口を図 7.2.1-3 に示す。

産業別就業者人口は、昭和 40 年に比べ第一次産業が約 15%と大幅に減少し、これに対し第三次産業は、約 60%と大幅に増加した。



(国勢調査結果を基に作成)

図 7.2.1-3 猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業人口

第1次産業
… 農業、林業、漁業
第2次産業
… 鉱業、建設業、製造業
第3次産業
… 電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業及び不動産業、サービス業、公務、医療・福祉、教育・学習支援業

(出典：文献番号 7-3)

3) 事業所数

猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体の事業所数を図 7.2.1-4 に示す。

事業所数は、各自治体とも概ね横這いで推移している。

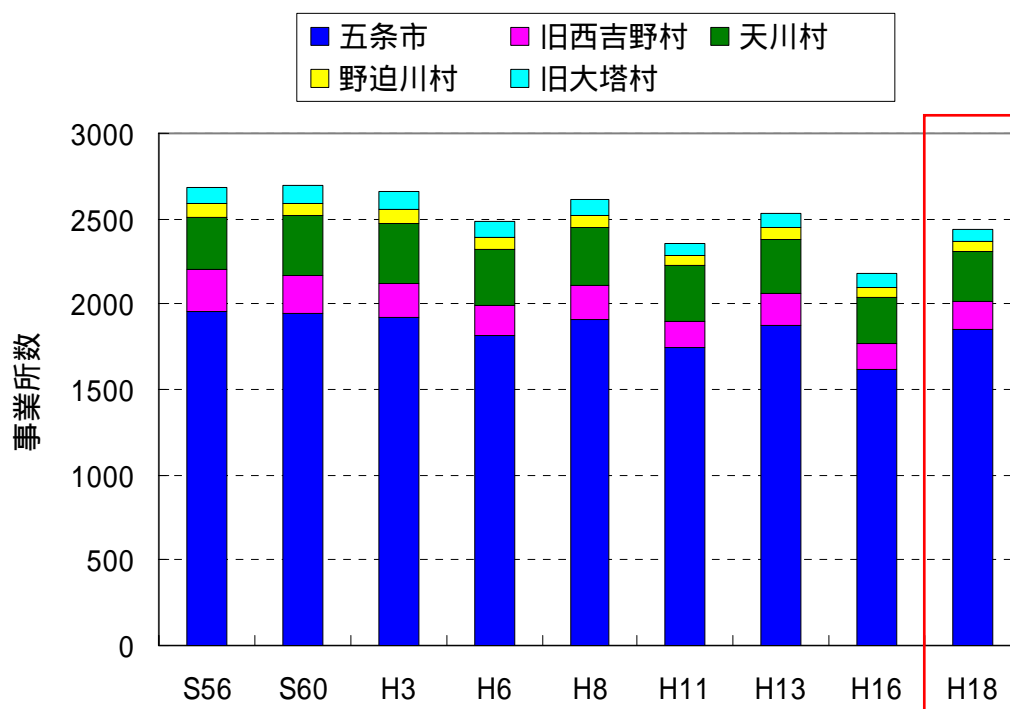


図 7.2.1-4 猿谷ダム水源地域を構成する旧自治体の事業所数

(出典：文献番号 7-3)

7.2.2 ダムの立地特性

(1) ダム周辺の幹線道路状況

猿谷ダムへの交通アクセスを図 7.2.2-1 に示す。

猿谷ダムは、五條駅から国道 168 号線を利用してバスで約 50 分の距離にある。五條市は、京奈和自動車道、五條新宮道路、東海南海連絡道がクロスする町であり、これらの交通手段を通じて猿谷ダムおよびその周辺の観光施設への観光客の集客が期待されている。



図 7.2.2-1 猿谷ダムへの交通アクセス

交通アクセス（五條市まで）

- | | | | | | |
|--------------|---------------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| (1) 大阪 | JR 環状線・関西本線王寺 | JR 和歌山線（高田） | JR 和歌山線五條 | 2 時間 | |
| (2) 大阪 | 地下鉄難波 | 南海高野線橋本 | JR 和歌山線五條 | 2 時間 | |
| (3) 京都 | 近鉄京都線（大和西大寺） | 近鉄橿原神宮前 | 近鉄吉野口 | JR 五條 | 2 時間 |
| (4) 名古屋 | JR 新幹線京都 | ルート（3） | | 3 時間 | |
| (5) 和歌山 | JR 和歌山線五條 | | | 1 時間 30 分 | |
| (6) 関西空港 | 南海線新今宮 | 南海高野線橋本 | JR 和歌山線五條 | 2 時間 30 分 | |
| (7) 大阪（伊丹）空港 | 空港バス大阪 | ルート（1） | （2） | （3）五條 | 2 時間 30 分 |

（出典：文献番号 7-1）

(2) ダム周辺の観光施設等

ダム周辺の観光施設位置については、図 7.2.2-2 に示すとおりである。

主な観光施設の概要について表 7.2.2-1 に示す。



図 7.2.2-2 猿谷ダム周辺の観光施設位置

赤谷オートキャンプ場は H23.9 災害のため平成 24 年度現在、休業中

(出典：文献番号 7-11)

表 7.2.2-1 周辺の主な観光施設 (1/3)

	施設名	概要
宮の滝		<p>篠原地区の西方林道沿いにある「宮の滝」は、落差約40mの3段の滝で那智の滝とは夫婦であると伝えられている。</p> <p>1段目の滑らかな岩肌で勢いをつけた水流は、2段目で空中に飛び出して滝壺を作り、これをこぼれ出て垂直に落ちる3段目は飛沫となり、時に最下部の滝壺で虹を浮かべる。2段目の滝壺には蛇がいると伝えられ、誰も近付かないように戒められてきた。</p> <p>3段それぞれに特徴を見せる宮の滝は、新緑や紅葉に映える美しさもさることながら、厳寒時に凍りついた様相にも見応えがある。</p>
ふなかわ 舟の川渓谷		<p>篠原地区の奥地から熊野川に流れ下る舟ノ川は、大峯山脈の明星ガ岳から七面山にかけての山稜を水源とする、非常に澄み切った清流である。新緑の季節、紅葉の季節に大自然のすばらしい景観を楽しませてくれる。</p>
こうやつじ 高野辻ピュ ーポイント		<p>世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の「大峯奥駈道<small>おおみねおくがけみち</small>」が通る大峯連山を東方に、真言密教の聖地高野山の山並みを西方に眺めることができる。</p> <p>東は、標高1894mの明星ガ岳を山稜の中央に眺め、南北に走る大峯の険しい山々がパノラマとなって広がり、西には条々たる山々と深い谷が織り成す紀伊山地の山々が見られ、早朝には谷を埋めるような雲海を眺めることもできる。</p>
ふれあい交 流館(大塔温 泉夢乃湯)		<p>「夢乃湯」を利用した総合温泉施設で、市民の文化や福祉の活動拠点、さまざまな交流の場としての機能を持っている。大会議室やアスレチックルームなど内容も充実し、ゆったりくつろいでリフレッシュできる環境が整っている。</p>
大塔コスミ ックパーク 「星のくに」		<p>緑あふれるすがすがしい高原にあるコスミックパーク星のくに。芝すべりやバーベキューを楽しみ、天文台やプラネタリウム館で星座の勉強をしたあとは、満天の星空を見上げながらロマンティックな気分になる。1日中遊べる大塔自慢の観光スポットである。</p> <p>平成23年9月の災害により平成23年9月～12月まで避難所として使用され、その間は休業中であった。現在は通常営業中である。(H25.3.7 五條市への聞き取り)</p>

表 7.2.2-1 周辺の主な観光施設 (2/3)

施設名	施設名	概要
オートキャンプとちお		<p>大自然に囲まれた天川村のキャンプ場。水泳・カヌー・ボート遊び・魚釣り・野猿に乗って近くの山林へ、森林浴も楽しめる。マスの釣堀もあり、一日中、飽きることなく過ごせる。</p>
円空の里なごみ村キャンプ場		<p>自然と設備を兼ね備えたキャンプ場。川遊びや渓谷での水遊び、魚のつかみ取り、谷間の木道を散歩。大自然と触れ合い、時の過ぎるのを忘れさせてくれる。</p>
天の川青少年旅行村		<p>吉野名産の杉林に囲まれたオートキャンプ場。春から夏にかけては新緑が美しく、夏にはひんやりとした天の川で水遊びや水泳を楽しめる。宿泊施設はコテージとバンガローがある。</p>
谷瀬キャンプ場		<p>吊橋から上流へ約 1km の川沿いにあるキャンプ場。敷地内には炊事場やトイレ・シャワーのほか、五右衛門風呂も設置されている。 平成 23 年 9 月の災害により平成 24 年 4 月まで休業中であったが、現在は通常営業中である。(H24.12.13 キャンプ場への聞き取り)</p>
吊り橋の里キャンプ場		<p>真上には、日本一のつり橋である谷瀬のつり橋があり、場内には熊野川が流れている。 平成 23 年 9 月の災害により平成 24 年 4 月まで休業中であったが、現在は通常営業中である。(H24.12.13 キャンプ場への聞き取り)</p>
月谷キャンプ場		<p>こぶし大の石ころがゴロゴロする川原がテントサイトのキャンプ場。谷瀬のつり橋から 1.5 km ほど下流にあり緩やかな清流で川遊びが楽しめる。</p>

表 7.2.2-1 周辺の主な観光施設 (3/3)

施設名	施設名	概要
道の駅「吉野路大塔」		<p>道の駅「吉野路大塔」は、大塔の様々な観光情報をはじめ、特産品を一堂に集めた総合案内センターである。ドライブのご休憩や見どころ情報の収集にも便利である。</p> <p>平成 23 年 9 月の災害により平成 24 年度現在、レストランを休業中であり、再開は未定である。 (H25.3.7 五條市への聞き取り)</p>
大塔郷土館		<p>郷土館は、大塔村の歴史と文化を正しく後世に伝えていくため、郷土の歴史や民俗資料を展示し、併せて山村の食文化を実演・体感できる場にして、都会の人達と村民とのふれあいスペースにすることを基本理念として建設された。</p> <p>平成 23 年 9 月の災害により平成 24 年度現在、休業中であり、再開は未定である(施設周辺を被災者の仮設住宅として使用)。(H25.3.7 五條市への聞き取り)</p>
しょうすいりょく 小水力の館(大塔水車施設)		<p>豊かな水量を利用してきび、あわをひく水車小屋である。これらをつかった食品も揃っている。</p> <p>平成 23 年 9 月の災害(水没による破損)により平成 24 年度現在、休業中であり、現在は復旧作業中であるが再開は未定である。(H25.3.7 五條市への聞き取り)</p>
赤谷オートキャンプ場		<p>キャンプ場には、バンガローや温泉もあり、付近には赤谷溪谷の見事な景観が広がっている。キャンプ場は、完全予約制で混みあうこともなく、のびのびと自然を満喫することができる。</p> <p>平成 23 年 9 月の災害により平成 24 年度現在、休業中であり、再開は未定である。(H25.3.7 五條市への聞き取り)</p>

平成 24 年度現在、一部または全てが休業中の施設

(出典：文献番号 7-11～15)

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

7.3.1 水没移転の状況

猿谷ダム建設事業に伴うに水没補償を表7.3.1-1に示す。

猿谷ダム建設に伴い、旧大塔村と天川村で95戸の住民が水没対象となったが、十津川村の減水補償、漁業補償、流筏補償（国道整備）を含む補償交渉が妥結し、試験湛水前には全戸の移転が完了した。

表7.3.1-1 水没補償

項目	内訳	関係町村	摘要
用地補償	土地買収 877反 327.64	大塔村 782反 623 天川村 79反 926.06 野迫川村 12反 504 五條市 2反 204.58	湛水敷地 756反 007.74 付替道路敷地 54反 713.32 堰堤附属敷地 43反 929 川原樋川筋 取水堰堤敷地 13反 212 その他敷地 9反 325.58
	田 13反 213	大塔村 12反 718 天川村 0.425	湛水敷地 11反 113 付替道路敷地 0.412 その他敷地 1反 618
	畑 53反 128	大塔村 49反 811 天川村 3反 317	湛水敷地 45反 124 付替道路敷地 5反 127 その他敷地 2反 807
	宅地 8407坪 42	大塔村 6564坪 58 天川村 1178坪 26 五條市 664坪 58	湛水敷地 7439坪 52 付替道路敷地 303坪 32 その他敷地 664坪 58
	山林 728反 207.80	大塔村 645反 729 天川村 69反 904.80 野迫川村 12反 504	湛水敷地 622反 816.80 付替道路敷地 46反 922 堰堤附属敷地 43反 929 川原樋川筋 取水堰堤敷地 13反 212 その他敷地 1反 118
	原野 54反 624	大塔村 52反 323 天川村 2反 301	湛水敷地 52反 007 付替道路敷地 1反 109 その他敷地 1反 508
	墓地 7坪 42	大塔村 7坪 42	湛水敷地 7坪 42
	移転家屋		水没移転 87戸 付替道路移転 8戸 計 95戸

（出典：文献番号7-7）

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

(1) 猿谷ダム水辺地域ビジョンについて

『猿谷ダム 21 世紀水源地ビジョン』は、ビジョンの策定及び推進に向けて、今後、検討を行っていく。

7.4.2 地域とダム管理者の関わり

地域とダム管理者との関わりを表 7.4.2-1 に示す。

猿谷ダムでは、地元市町村等、地域との関わりとして、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環で平成 19 年度まで「サマーレイクフェスティバル」を開催してきた。平成 19 年度は 8 月 4 日に開催され、絵画コンクール表彰式、コンサート等の催し物を行っている。本イベントには、地元の小学生を主とした一般市民が多く参加している。

なお、平成 20 年度以降は、「森と湖に親しむ旬間」等の行事は開催されていない。

表 7.4.2-1 地域とダム管理者との関わり

開催年月日	名称	開催場所	内容	主催者
平成 19 年 8 月 4 日	サマーレイクフェスティバル	猿谷ダム	・環境月間絵画コンクール表彰式 ・ステージイベント ・関係団体ブース出展 等	猿谷ダムサマーレイクフェスティバル実行委員会

表 7.5.1-1 ダム湖周辺施設の設置状況

地区	設備
A地区	<ul style="list-style-type: none"> ・展望広場（慰霊碑） ・遊歩道
B地区	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランス広場（記念碑・便所） ・展望広場 ・桜並木 ・遊歩道（現在は歩けない） <p>あいあい公園は、落石等の危険があるため、現在閉鎖中</p>
C、D地区	<ul style="list-style-type: none"> ・環境護岸

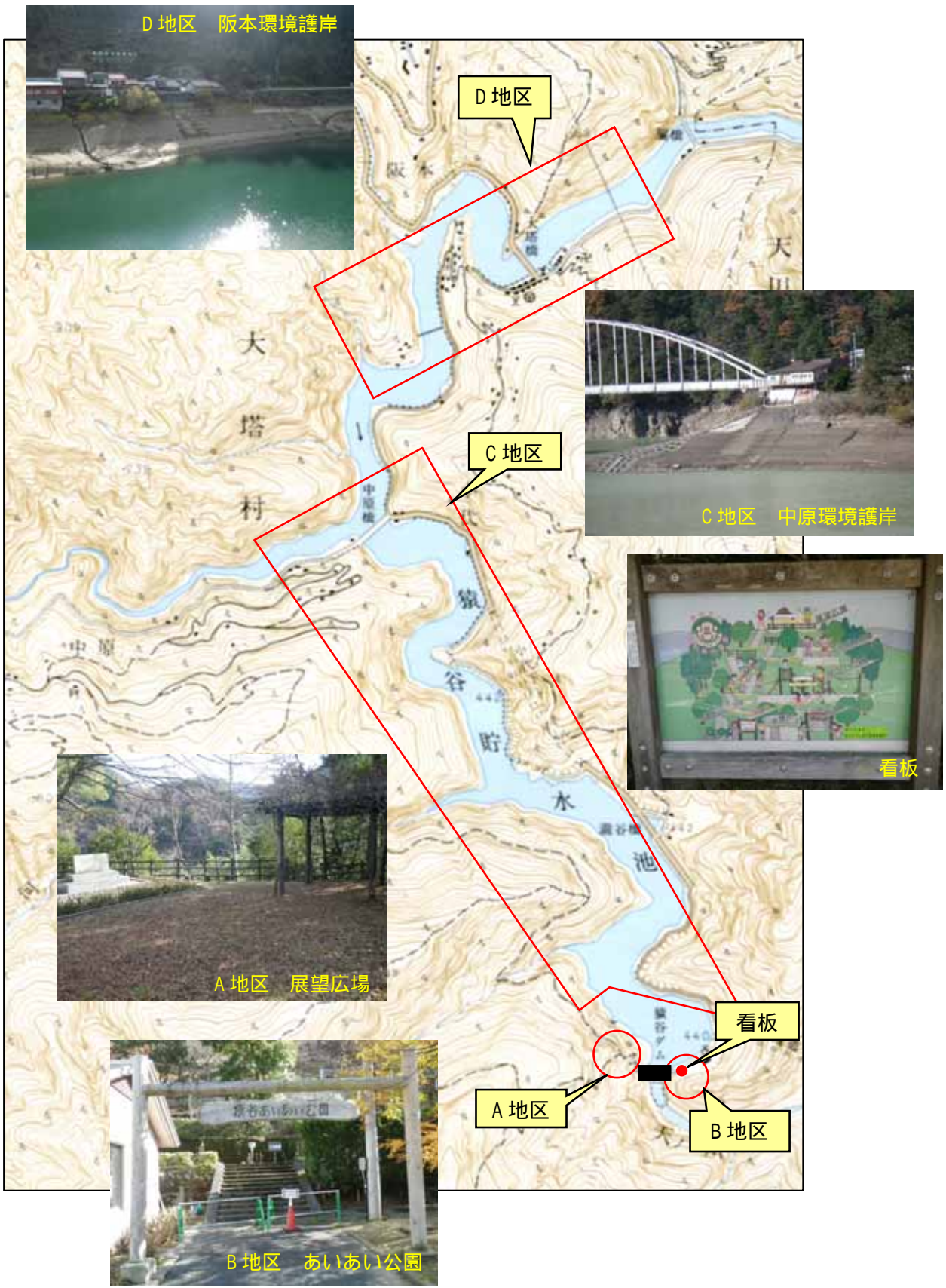


図 7.5.1-2 ダム周辺整備状況

7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

(1) ダム周辺施設の入込観光客数

ダム周辺施設の入込観光客数を図 7.5.2-1 に、また、ダム周辺観光地位置図を図 7.5.2-2 示す。なお、十津川村は水源地域には該当しないが、ダム周辺の観光施設の参考値として整理した。

直近の数値である平成 23 年度では、十津川温泉郷が最も多く、次いで道の駅が多い結果であった。

経年的な変化をみると、各周辺施設の入込観光客数は、やや減少傾向がみられるが、近年 5 ヶ年で見ると、十津川温泉郷の入込観光客数に増加傾向がみられる。

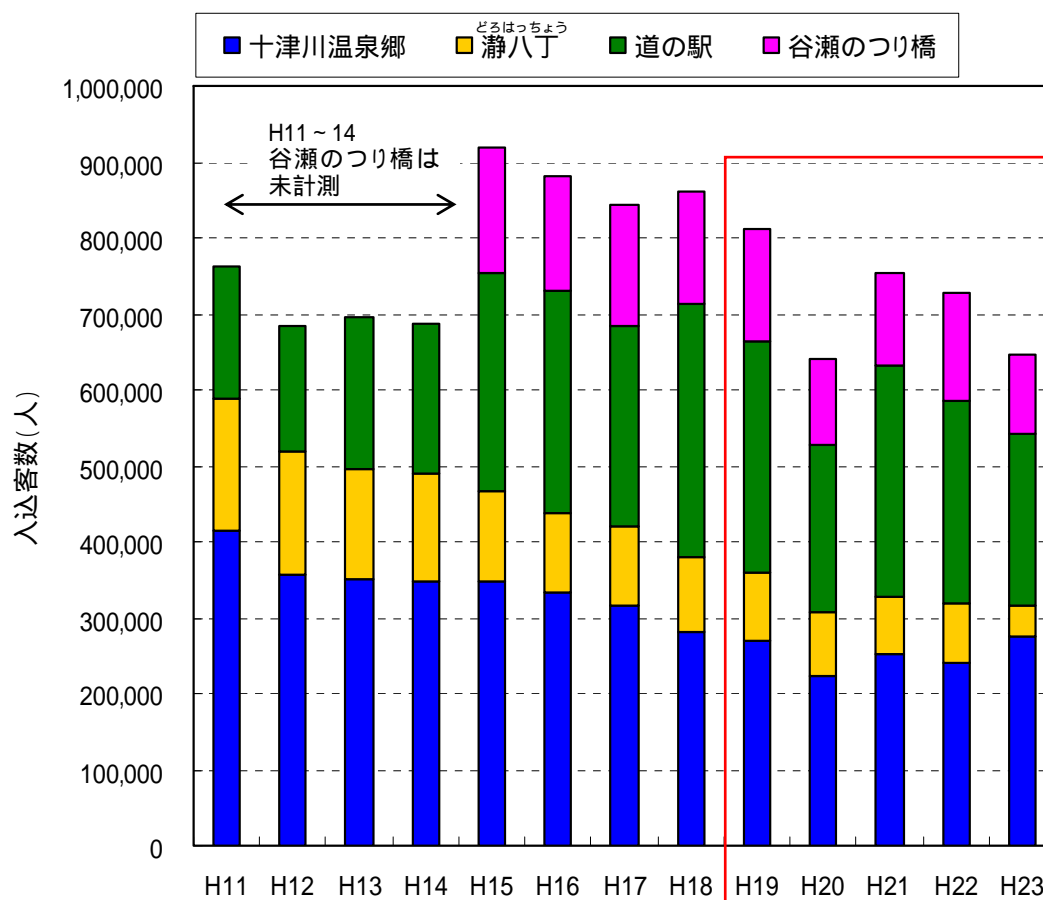


図 7.5.2-1 ダム周辺施設の入込観光客数

(出典：文献番号 7-9)

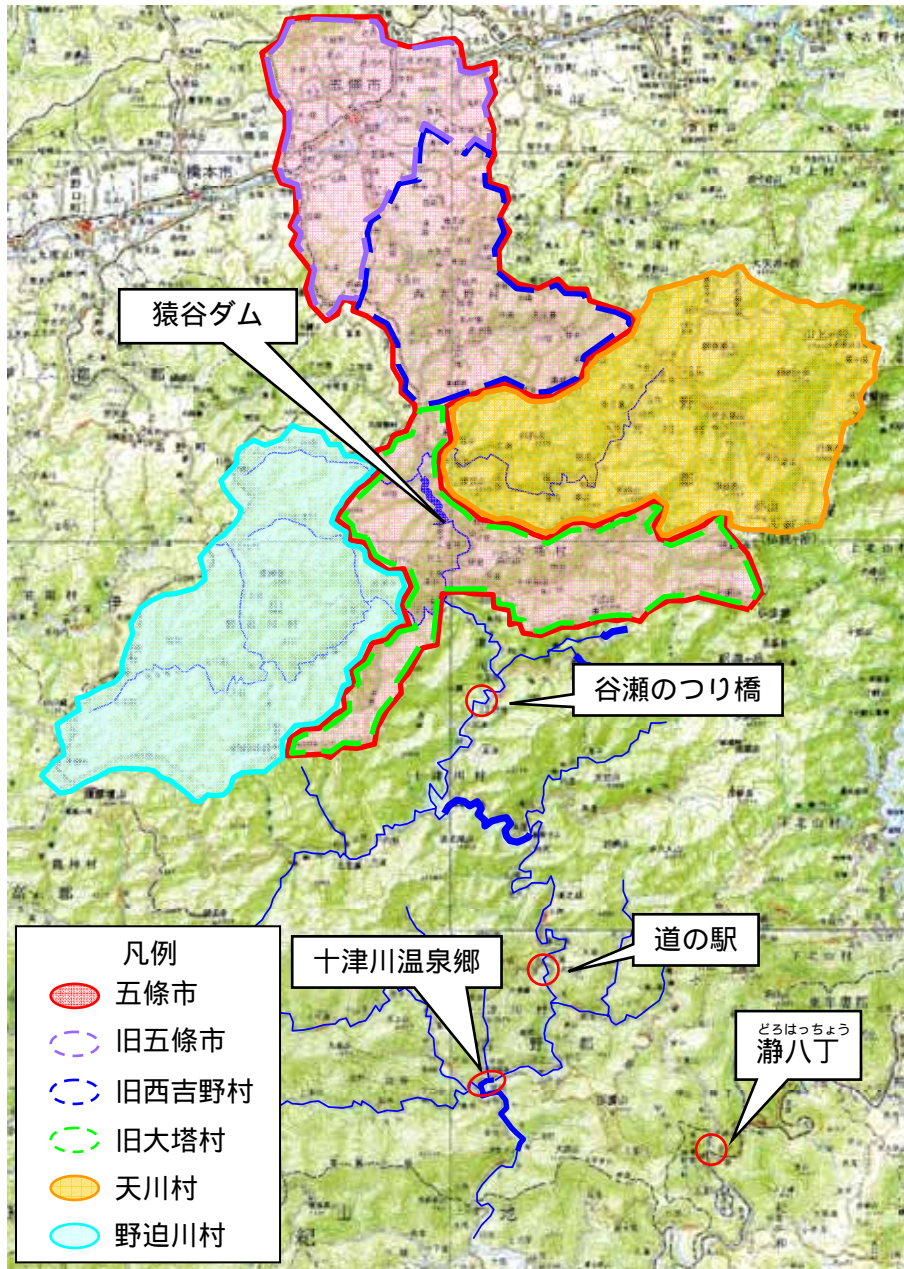


図 7.5.2-2 ダム周辺観光地位置図

(2) ダムカード配布状況

猿谷ダムで配布しているダムカードを写真 7.5.2-1 に示す。

ダムカードは、国土交通省と独立行政法人水資源機構の管理するダムにおいて、ダムのことをより知って貰う目的で平成 19 年度より、ダムを訪問した方に配布している。

猿谷ダムにおいても、独自のダムカードを作成し、ダムを訪問した方に配布している。平成 19 年度で 118 枚、平成 20 年度で 280 枚、平成 21 年度で 323 枚、平成 22 年度で 268 枚、平成 23 年度で 193 枚となっている。平成 19 年度から配布し、平成 23 年度末までに 1182 枚を配布している。



写真 7.5.2-1 猿谷ダム ダムカード

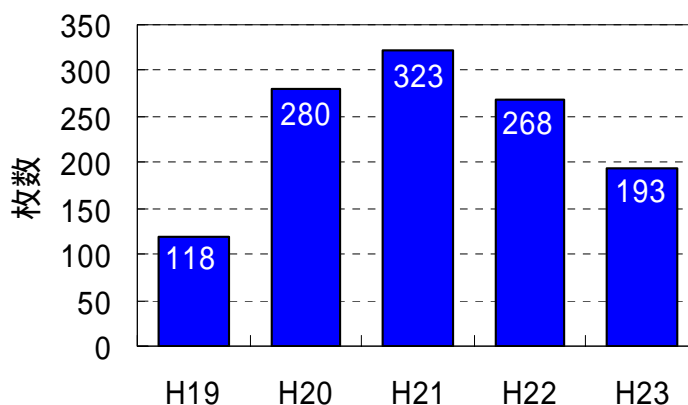


図 7.5.2-3 ダムカードの配布枚数

7.5.3 ダム周辺のイベント等の開催状況

猿谷ダム周辺で平成 19 年度～23 年度にかけて開催されたイベントを図 7.5.3-1 に示す。

猿谷ダムでは、ダム管理者と地域との関わりとして、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環で平成 19 年度まで「サマーレイクフェスティバル」を開催してきた。

サマーレイクフェスティバル 2007 は、平成 19 年 8 月 4 日に開催され、絵画コンクール表彰式、コンサート等の催し物を行っている。本イベントには、地元の小学生を主とした一般市民が多く参加している。

平成 20 年度以降は、「森と湖に親しむ旬間」の行事は開催されていないが、今後、ダム管理者と地域との関わりに関連する取り組みを再開することを検討していく。

なお、平成 21 年 7 月 26 日には、猿谷ダムの一部がサイクリングイベント（第 6 回山岳グランフォンド in 吉野）のルートとしても利用されている。



図 7.5.3-1 サマーレイクフェスティバル 2007 の開催状況

7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査は、全国の直轄・水資源機構管理ダムを中心に、ダム事業、ダム管理を適切に推進するため、ダム湖及びダム周辺を環境という観点からとらえた、定期的、継続的、統一的なダムに関する基礎情報の収集整備を図ることを目的として行われている。

この項は、平成3年度、平成6年度、平成9年度、平成12年度、平成15年度、平成18年度、平成21年度に実施した河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）の調査結果を整理した。

ダム湖利用実態調査のブロック区分施設位置図を図7.6.1-1に示す。猿谷ダムのダム湖利用実態では、以下の9つのブロックに区分して調査を実施している。

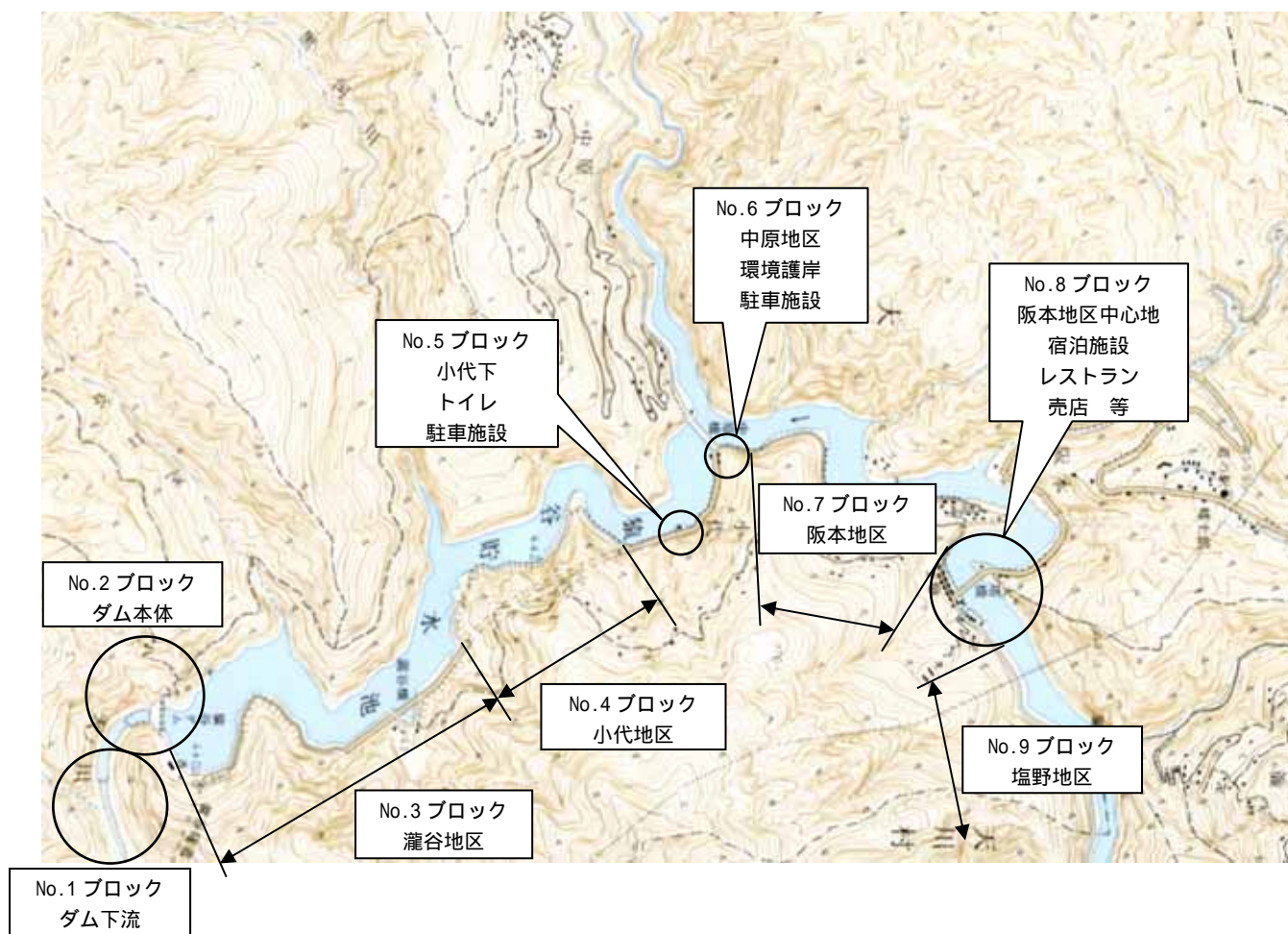


図 7.6.1-1 ブロック区分施設位置図

7.6.1 利用者カウント調査結果

(1) 年間利用者（推計値）

猿谷ダムにおける年間利用者数（推計値）を図 7.6.1-1 に示す。

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）における猿谷ダム湖及びダム周辺の年間利用者数の推計値をみると、年間7日間の調査人数から、平成3年度で15万3千人、平成6年度で36万8千人、平成9年度で54万6千人、平成12年度で49万1千人、平成15年度で12万5千人、平成18年度で22万1千人、平成21年度で14万2千人と推計されており、平成15年度以降、減少傾向にある。利用者数の減少要因として、幾つか可能性を挙げるとすると、水源地域における人口減少（少子高齢化による外出頻度、交流人口の減少）、ダム湖周辺施設の老朽化に伴う魅力の減少、不況に伴う外出・旅行回数の減少、広報費削減に伴うダム管理者のPR不足等が考えられる。

一方、年間利用者数の全国的な状況を見ると、平成21年度調査における猿谷ダムの年間利用者数は、全国106ダム中で第96位、近畿地方整備局管内11ダム中で11位の利用者数となっており、全国ダムの中でも、比較的年間利用者数が少ない。

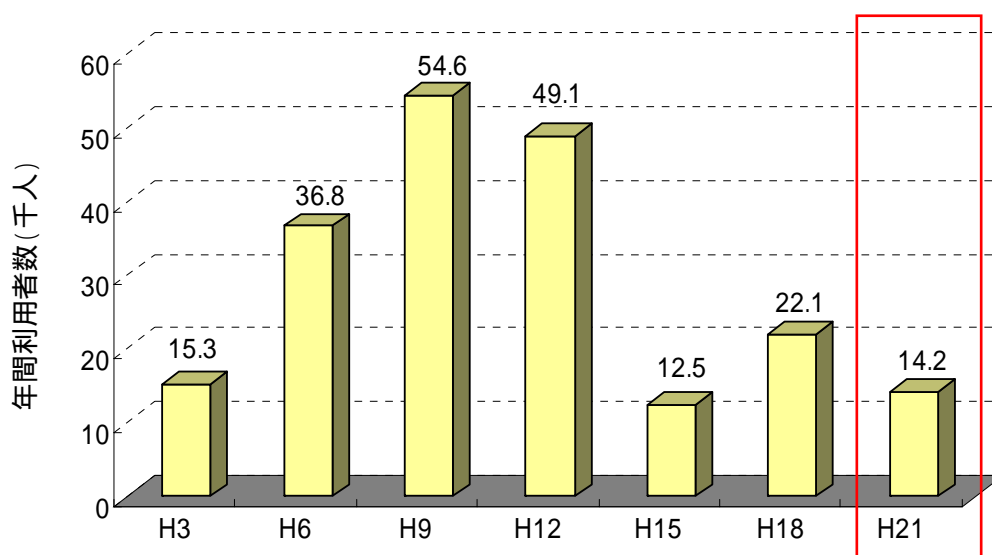


図 7.6.1-1 猿谷ダムにおける年間利用者数（推計値）の経年変化

（出典：文献番号 7-10）

(2) 季節別利用者数

猿谷ダムにおける季節別利用者数を図 7.6.1-2 に示す。

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）における季節別利用者数をみると、夏季と秋季に利用者が多く訪れている傾向がみられている。これは、ダム湖周辺の豊かな樹林環境を散策しにくる利用者が多いためと考えられる。

経年変化をみると、春季は概ね横這いで推移しているものの、その他の季節では減少傾向がみられる。春季の桜の開花を見に来る人は依然多いためと考えられる。

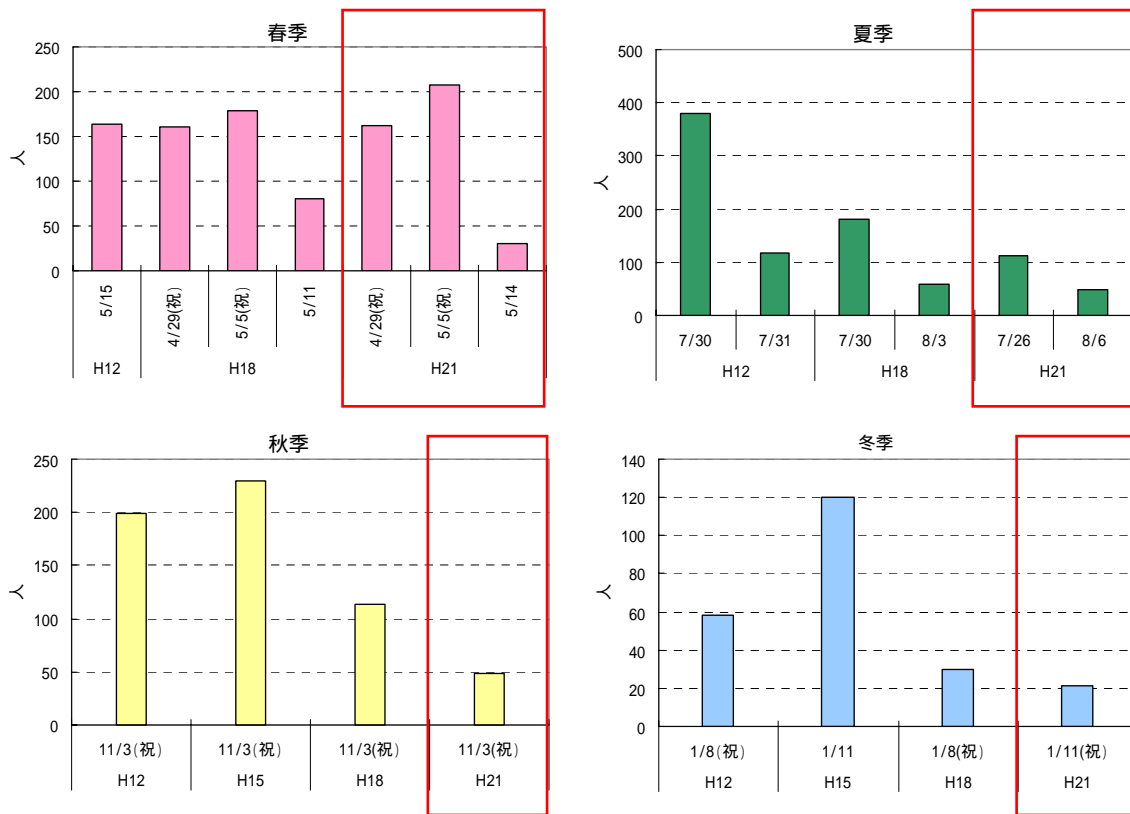


図 7.6.1-2 猿谷ダムにおける季節別利用者数の経年変化

(出典：文献番号 7-10)

(3) 地区別利用者数

猿谷ダムにおける地区別利用者数を図 7.6.1-3 に示す。

年により利用者数の違いがあるものの、ダム本体が最も利用者が多い傾向がみられている。近年では、次いで、阪本地区、阪本地区中心部を訪れる人が多い。

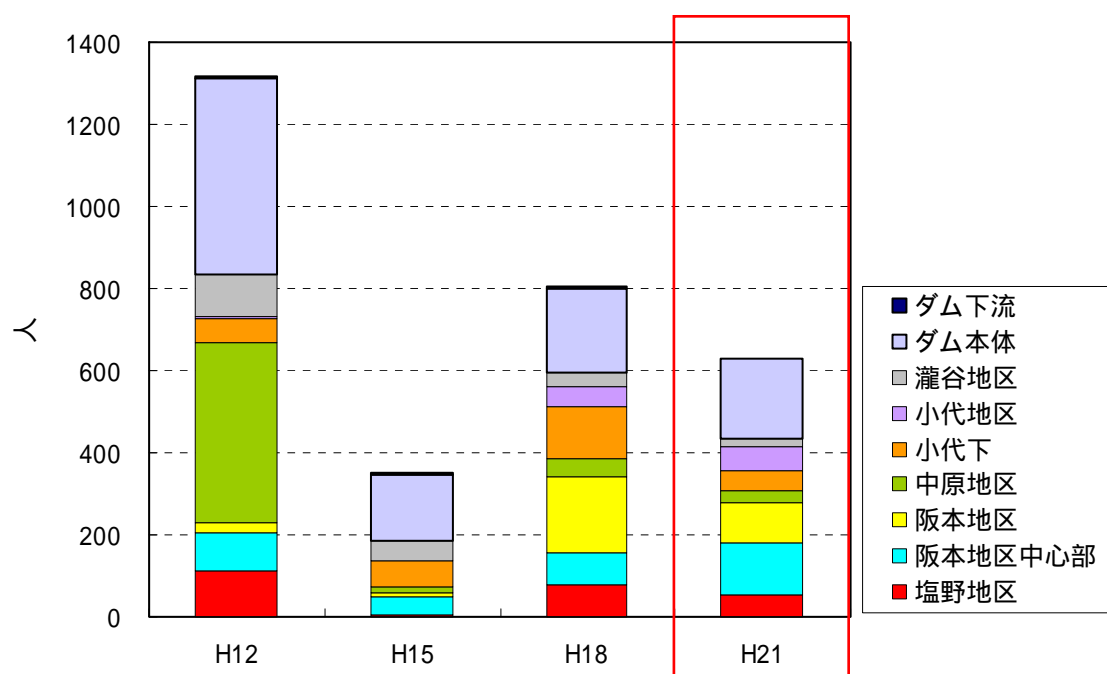


図 7.6.1-3 猿谷ダムにおける地区別利用者数の経年変化（年度別）

（出典：文献番号 7-10）

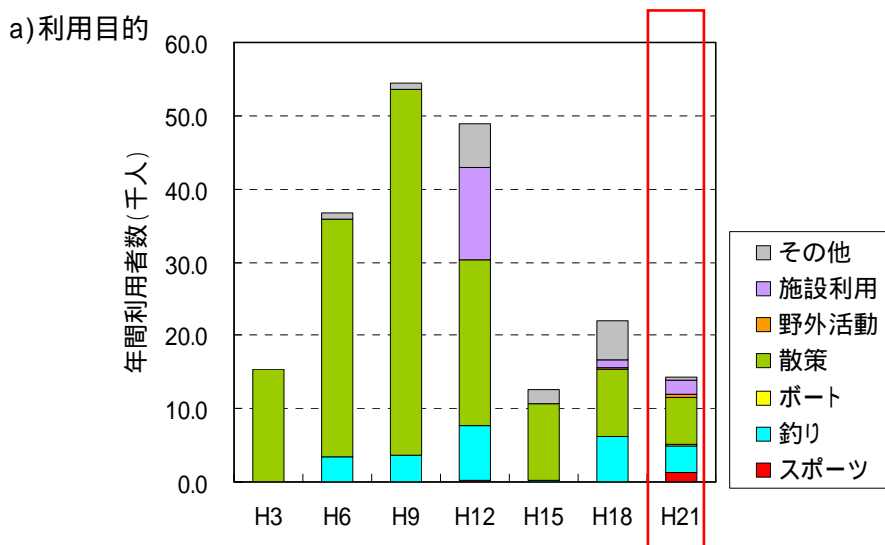
(4)形態別利用者数

猿谷ダムにおける形態別利用者数を図 7.6.1-4 に示す。

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）の調査における利用目的別利用者数をみると、年間を通じて最も利用者数が多かった利用目的は、散策であり、次いで釣りまたは施設利用であった。一方、年間を通じて利用者数が少なかった利用形態は、ボートであった。なお、平成 21 年度のスポーツとはサイクリングのことである。

次に、利用場所別利用者数をみると、年間を通じて最も利用者数が多かった利用場所は、ダムであり、次いで湖畔であった。年間を通じて利用者数が少なかった利用場所は、湖面であった。

以上のことから、利用形態の内容で利用者が多い少ないの違いはみられるものの、その経年的な傾向に大きな変化はみられていないと考えられる。



スポーツはサイクリングのことである

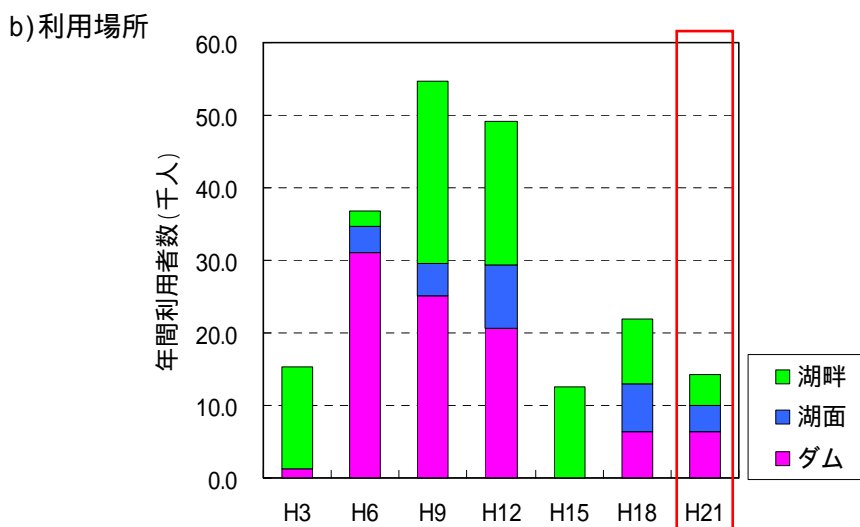


図 7.6.1-4 猿谷ダムにおける形態別利用者数の経年変化（年度別）

（出典：文献番号 7-10）

7.6.2 利用者アンケート調査結果

平成 18 年度及び平成 21 年度に実施した河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）において、利用者カウント調査時に実施したアンケート調査結果により、猿谷ダムの利用の特徴を整理した。

なお、平成 18 年度の調査対象人数は 156 人、平成 21 年度の調査対象人数は 149 人である。

(1) 利用者属性

利用者アンケート調査における利用者属性を図 7.6.2-1 に示す。

平成 18 年度には 20 代がさらに減少し、60 代の割合が増加している。平成 21 年度には 50 代以下が概ね減少し、70 代の割合が増加している。以上のことから、徐々に利用者の年齢層が上がっている傾向がみられる。また、性別は、いずれの年でも男性が約 9 割を占めている。

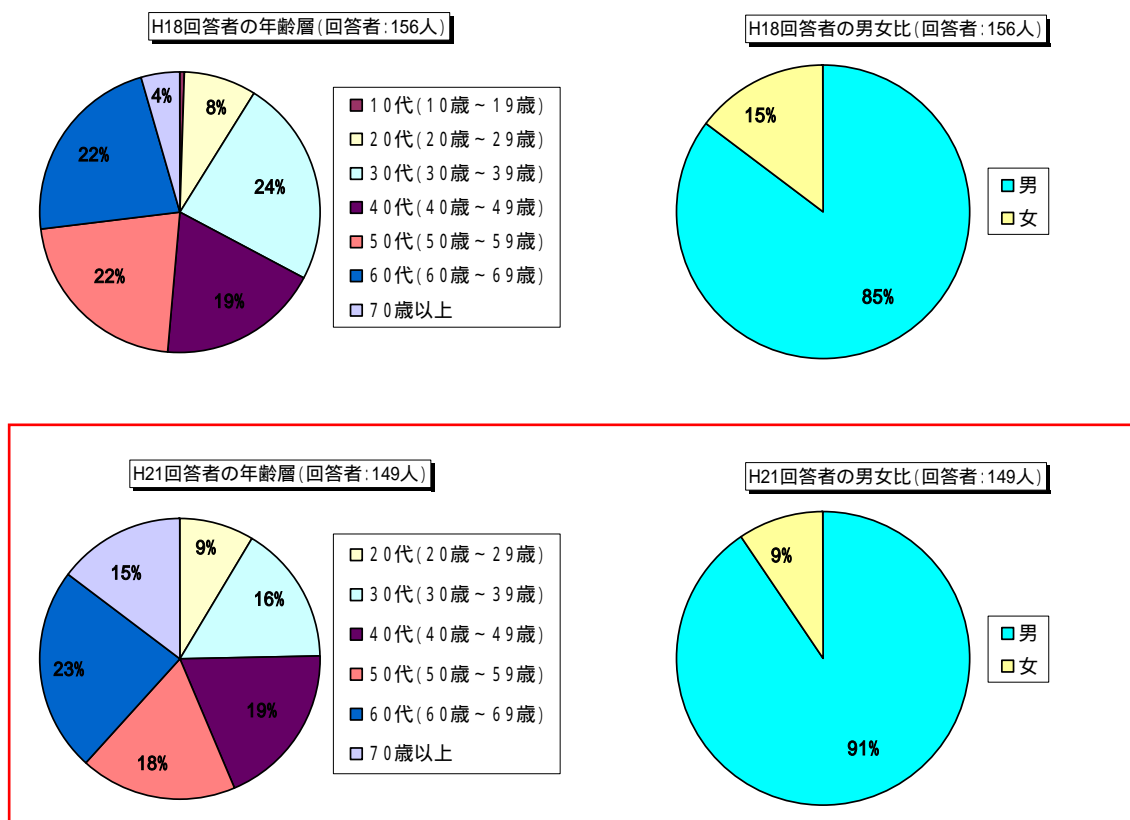


図 7.6.2-1 利用者属性

(出典：文献番号 7-10)

(2) 利用者の住居

利用者アンケート調査における利用者の住居を図 7.6.2-2 に示す。

利用者の住居の経年変化をみると、県外が最も多く、次いで県内の傾向がみられ、経年的に大きな変化はみられない。

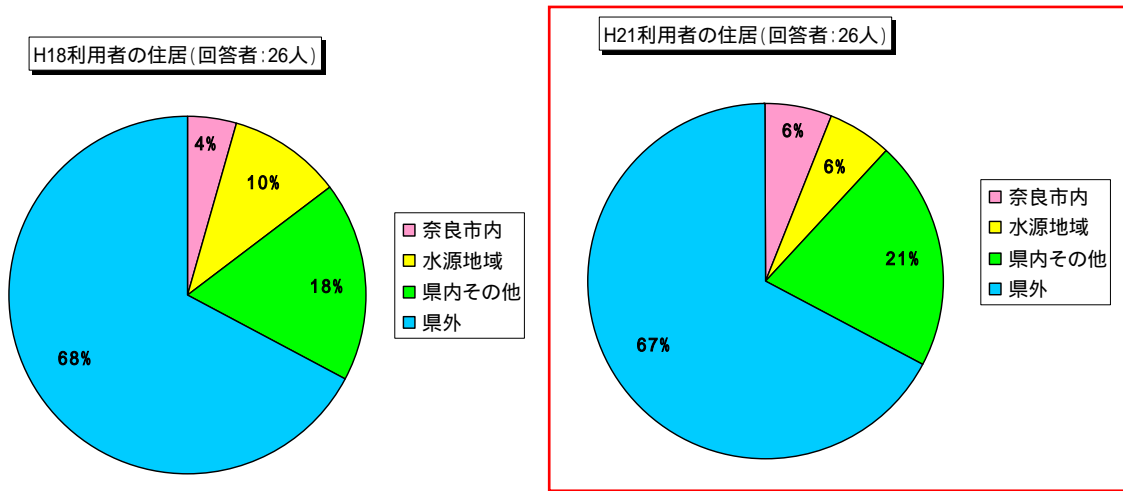


図 7.6.2-2 利用者の住居

(出典：文献番号 7-10)

(3) リピート状況

利用者アンケート調査における利用者のリピート状況を図 7.6.2-3 に示す。

利用者のリピート状況は、概ね 70%前後である。

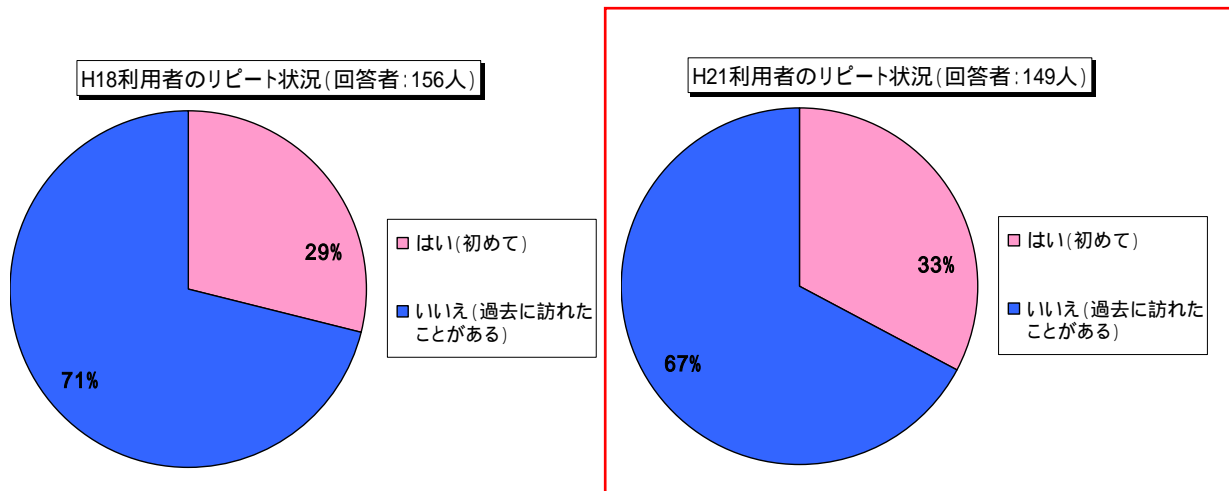


図 7.6.2-3 利用者のリピート状況

(出典：文献番号 7-10)

(4) 利用目的

利用者アンケート調査における猿谷ダムを利用した目的を図 7.6.2-4 に示す。

トイレ・休憩の利用者が半数以上を占めている。近年では、ダム見学、釣りの利用者が増加傾向である。

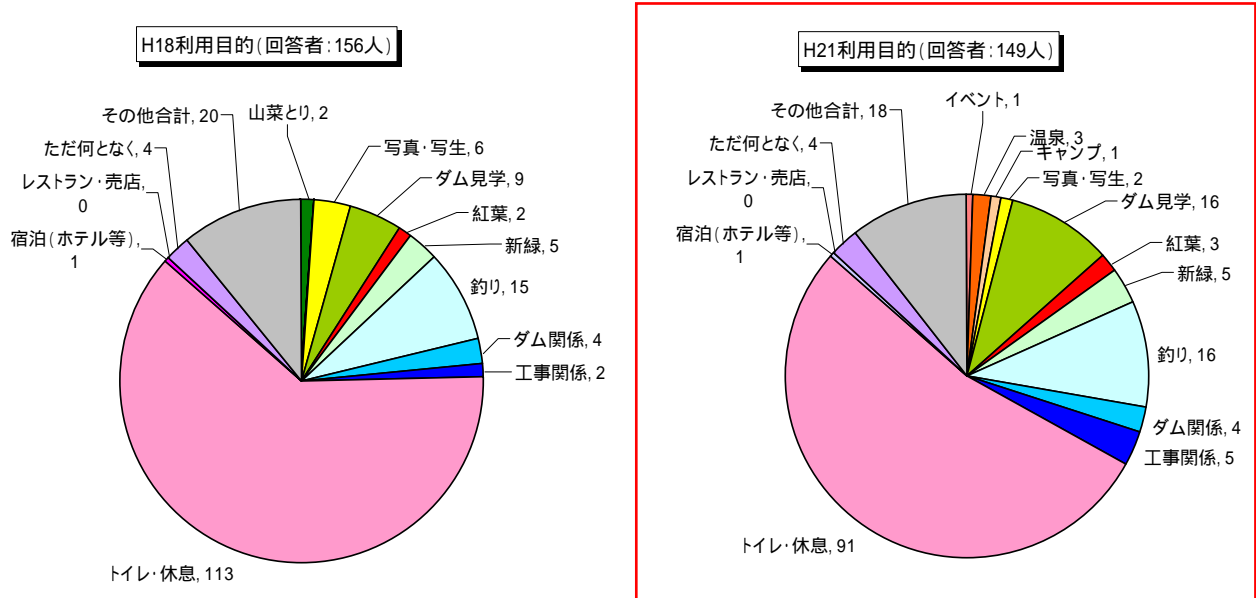


図 7.6.2-4 猿谷ダムを利用した目的

(出典：文献番号 7-10)

(5) 滞在時間

利用者アンケート調査における猿谷ダムでの滞在時間を図 7.6.2-5 に示す。

30分未満の短期利用者が大部分を占めている。利用目的がトイレ・休憩であることが要因であると考えられる。

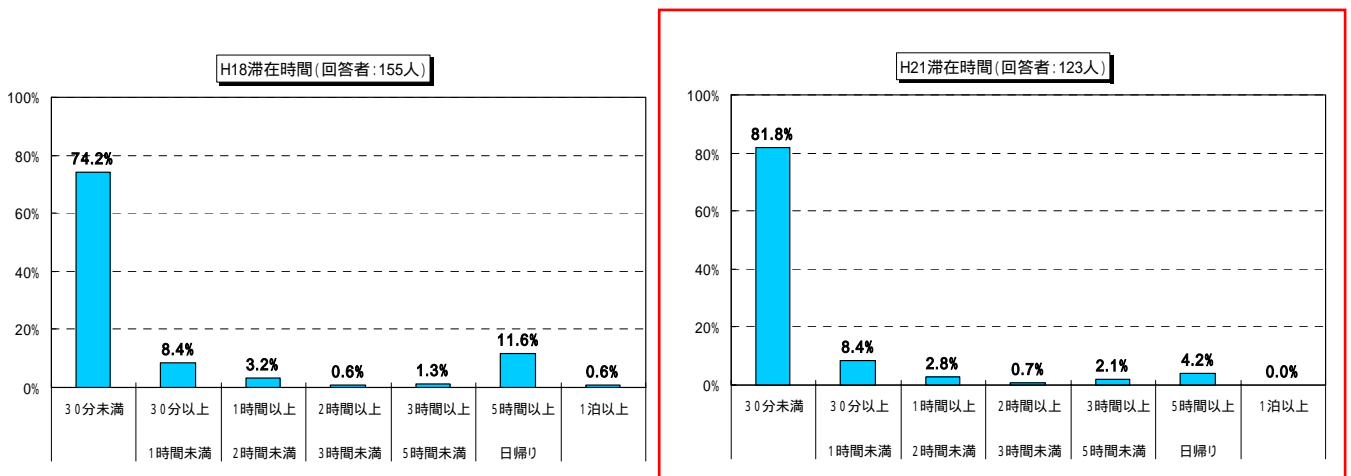


図 7.6.2-5 猿谷ダムでの滞在時間

(出典：文献番号 7-10)

(6) 利用者の感想

利用者アンケート調査における利用者の感想を図 7.6.2-6 に示す。

いずれの年度でも利用者の半数以上が「満足している」または「まあ満足している」と回答しており、猿谷ダム及び周辺施設に満足している傾向がみられている。

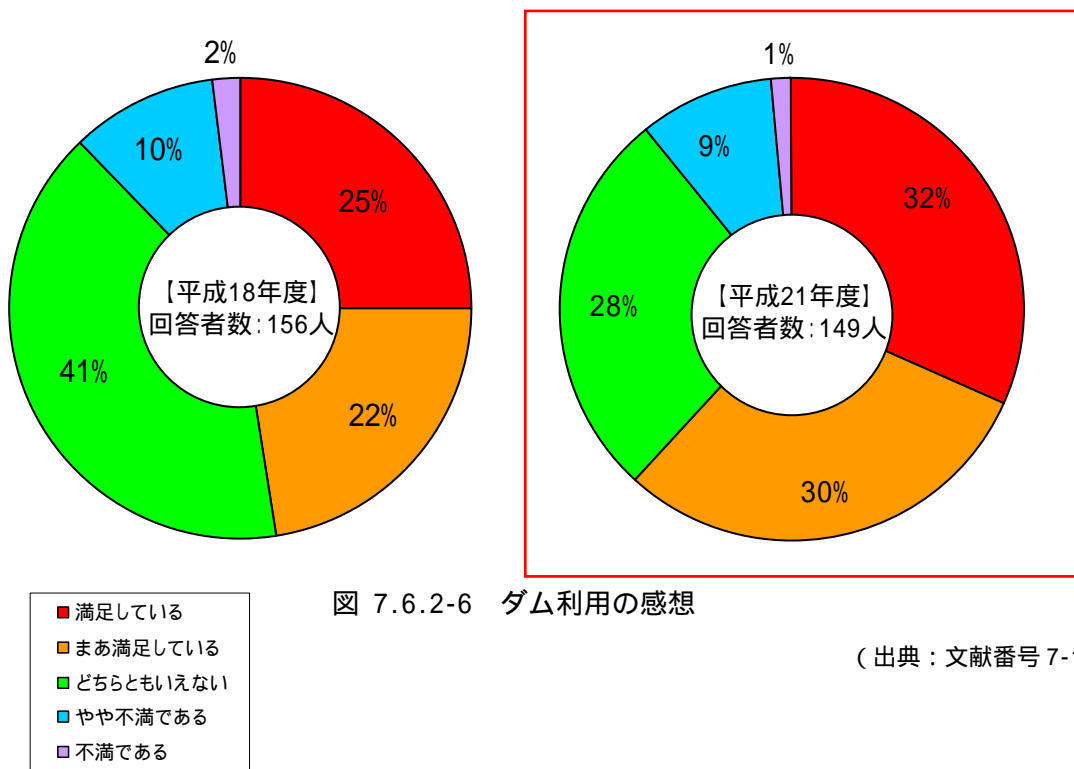


図 7.6.2-6 ダム利用の感想

(出典：文献番号 7-10)

7.7 まとめ

猿谷ダム周辺には展望施設、遊歩道、あいあい公園等の様々な施設が設置されているが、老朽化等に伴い、現在は利用できない施設が多い。また、近年、ダム周辺のイベント等は実施されていない。猿谷ダムの利用者は平成 15 年度以降、減少しており、減少要因の一つとしてこれらが関係している可能性がある。

ダム来訪者へのアンケート結果では、猿谷ダム利用者の半数以上が周辺設備に概ね満足しているなど、観光資源としての要素は持ち合わせていることから、周辺施設の修復やイベント等の再開により、猿谷ダムの魅力を回復させ、今後とも継続的な P R 活動が必要であると考えられる。

今後の方針としては、猿谷ダムの役割や機能、取り組み状況等を一般の方に広く理解していただけるよう、継続的かつ効果的な P R 活動を行っていくとともに、ダム周辺の自然環境や周辺施設を利用した活動等に参画していく。また、平成 20 年度以降は、「森と湖に親しむ旬間」等の行事は開催されていないが、今後、ダム管理者と地域との関わりに関連する取り組みを再開することを検討する。

7.8 文献リスト

水源地域動態のとりまとめに使用した文献・資料を表 7.6.2-1 に示す。

表 7.6.2-1 使用した文献・資料

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月日	箇所
7-1	五條市ホームページ	五條市役所		ダムの立地条件
7-2	国勢調査(人口・世帯)	(財)統計情報研究会開発センター	昭和40年～ 平成23年	人口・世帯
7-3	国勢調査(就業者人口)	総務庁統計局	昭和40年～ 平成23年	就業者人口、事業所数
7-4	河内長野市ホームページ	河内長野市		
7-5	五條市ホームページ	五條市役所		
7-6	野迫川村ホームページ	野迫川村		
7-7	猿谷ダム工事誌	近畿地方建設局十津川利水工事々務所	昭和36年	
7-8	ダム周辺施設観光入込客数	五條市		ダム周辺施設の利用状況
7-9	ダム周辺施設観光入込客数	十津川村		ダム周辺施設の利用状況
7-10	河川水辺の国勢調査	国土交通省河川局河川環境課	平成3～平成21年	ダム周辺施設の利用状況
7-11	紀の川ダム統合管理事務所ホームページ	国土交通省近畿地方整備局		
7-12	オートキャンプとちおホームページ	オートキャンプとちお		
7-13	円空の里なごみ村キャンプ場ホームページ	円空の里なごみ村キャンプ場		
7-14	吊り橋の里キャンプ場ホームページ	吊り橋の里キャンプ場		
7-15	天の川青少年旅行村ホームページ	天の川青少年旅行村		